**表題：**太字・中央揃え・16ポイント

**副題** 太字・中央揃え・16ポイント

**Title of Manuscript:** Times New Roman・太字・中央揃え・14ポイント

**Subtitle** Times New Roman・太字・中央揃え・14ポイント

1行空ける

蛇節　花子 中央揃え・12ポイント

（JACET大学）括弧書き。中央揃え・12ポイント

蛇節　太郎　・　蛇節　次郎 複数の著者で所属が同一の場合

（JACET関東附属高等学校）

蛇節　三郎

（JACET関東大学大学院生）フルタイムの職務を持たない大学院生の場合

1行空ける

**Abstract** Times New Roman・太字・中央揃え・10.5ポイント

Abstractは日本語論文でも英語200語以内で記載する。一段落で書き，インデントや改行はしない。フォントはTimes New Roman 12ポイントとし，両端揃えで書く。なお、論文全体のページ数はA4で20ページ以内とする。

投稿種別に関わらずAbstractには，

* 実証研究論文であれば，研究課題，研究参加者，研究方法，主要な発見，結論，および意義もしくは応用について書くこと。
* 文献レビュー，メタ分析であれば，研究課題，レビューする論文の選考基準，先行研究に含まれる研究参加者，主要な結果，結論，理論もしくは実践などの意義について書くこと。
* 方法論研究であれば，議論する方法論の種類，提案する方法の特徴，提案する方法の応用範囲について書くこと。
* 事例研究 (ケーススタディ) であれば，研究参加者，グループ，コミュニティや組織等の主要な特徴，事例によって明らかにされた問題に対する解決法，今後の研究や理論のための課題について書くこと。

1行空ける

***Keywords*:** スピーキング，フォーカス・オン・フォーム，内省，インタラクション，社会文化理論 キーワードは5つまで。日本語 (MS明朝) もしくは 英語 (Times New Roman) の10.5ポイントで書く。両端揃え。

1行空ける

**1. はじめに** 太字・中央揃え・10.5ポイント

本テンプレートは*Publication Manual of the American Psychological Association*第7版 (2019) に基づいているが，完全に従っているわけではないことに注意すること。また，第7版に準拠した日本語訳版『APA論文作成マニュアル第3版』(2023) の記述を直接引用している部分がある。

本文はMS明朝10.5ポイントを使用し，両端揃えで書く。英数字記号は原則半角文字を使用し，フォントはTimes New Romanの10.5ポイントで書く。句読点は全角の (，) と (。) を使用する。インデントは全角1文字とする。セクションタイトルは，本文と同様のフォントを使用するが，太字にし，左揃えにする。

序文には研究課題の重要性の検討が含まれる。研究課題の重要性を論証しつつ，研究の目的について簡潔かつ明確に述べる。両端揃え・10.5ポイント

**2. 先行研究** 太字・中央揃え・10.5ポイント

**2.1 本文中での引用について (APA第7版, 表8.2, p. 272, pp. 253–278参照)** 太字・左揃え・10.5ポイント

先行研究の記述を直接引用する場合，必ず出典情報 (著者・出版年・ページ数) を記す。引用箇所が短い場合 (英文は40語未満) は，英語では “　”，日本語では「　」でくくって本文中に挿入する。

日本語例：

川成 (2011) は，社会文化的アプローチという用語が「文化人類学，応用言語学，心理学，教育学などの分野における研究方法の1つとして広範囲に使われてきている」(p. 122) と説明している。

英語例：

明示的学習とは，“[l]earning with awareness, taking place mainly through explicit instruction” (Nassaji, 2017, p. 206) を指す。

引用箇所が英語で40語以上に及ぶ場合，日本語である程度の分量に及ぶ場合には，“　”もしくは「　」は使用せず，以下のようなブロック引用にする。

ブロック引用例 (引用箇所を改行し，ブロック全体を左マージンから全角1文字インデントする)：

タスク中心教授法に関する研究については次のように言及されている。

Related to most task-based research are the concepts of *negotiated interaction* and *focus on form*. The central role of interaction in L2 learning has been underscored by interactionist approaches to SLA, which propose that interaction is a very effective way for learners to obtain data for L2 learning. (de la Fuente, 2006, p. 265)

　　したがって...。

本文中で特定の研究に言及する場合，著者が1名の場合は小池 (2004) もしくはKoike (2004) のようにする。共著の場合は，新多・馬場 (2016) もしくは，Nitta and Baba (2016) のようにする。著者が3名以上の場合，佐野他 (2011) もしくはSano et al. (2011) のように，第一著者の名前のみを含める。カッコ内に著者情報を入れる場合は (佐野他, 2011; Koike, 2004; Lantolf, et al., 2015) など，和文文献，欧文文献の第一著者の文字 (それぞれ，50音，アルファベット) 順で並べる。詳細についてはAPA第7版の261–269頁を参照すること。

1行空ける

**2.2 図表の書式 (APA第7版, pp. 195–250参照)** 太字・10.5ポイント

図表の例を表1および図1に示す。表はWordの「表の挿入」で作成するのが望ましく，編集不可能な形式での貼り付けは避ける。図の貼り付けには，メタファイル形式やビットマップ形式など編集しやすく解像度の高いものが好ましい。図の色を選択する際は，見やすく，色の違いを十分に識別できるように配慮すること。図表の前後はそれぞれ1行空ける。

　図表番号 (例. 図1，表1) は太字で左揃えとし，タイトルは太字や斜体にせず，次の行から始める。図表を記載する場合は適宜*Presenting Your Findings: A Practical Guide for Creating Tables*や*Displaying Your Findings: A Practical Guide for Creating Figures, Posters, and Presentations* (ともにNicol & Pexman, 2010) を参照することが望ましい。

**表1** 太字・左揃え・10.5ポイント

文法およびスピーキングテストの平均値および95%信頼区間と標準偏差 左揃え・10.5ポイント

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 指導1回目 |  | 指導2回目 |  | 指導3回目 |
| 参加者 | *n* | *M* | 95% CI | *SD* |  | *M* | 95% CI | *SD* |  | *M* | 95% CI | *SD* |
| 文法 (%) 数値の単位は見出しなど分かりやすい箇所に明示すること |
| 高校生 | 25 | 23 | [21, 25] | 10 |  | 38 | [36, 40] | 13 |  | 52 | [49, 55] | 15 |
| 大学生 | 25 | 42 | [40, 44] | 11 |  | 55 | [53, 57] | 12 |  | 82 | [79, 85] | 16 |
| スピーキング (%) |
| 高校生 | 25 | 15 | [13, 17] | 10 |  | 20 | [18, 22] | 12 |  | 42 | [39, 45] | 15 |
| 大学生 | 25 | 20 | [18, 22] | 10 |  | 33 | [31, 35] | 12 |  | 55 | [52, 58] | 17 |

注.欠席者はリストワイズで分析から除外した。CIは信頼区間を指す。注は改行せず続けて書くこと。

1行空ける

**図1** 太字・・左揃え・10.5ポイント

高校生および大学生の文法テストの平均値の推移 (± *SD*) 左揃え・10.5ポイント

1行空ける

**3. 方法** 太字・中央揃え・10.5ポイント

**3.1 参加者** 太字・10.5ポイント

　方法，結果，考察，結論の各セクションに必要な見出しの種類は，研究デザインによって異なる。各セクションでどのような要素を報告すべきかは，APA第7版を参照すること。

1行空ける

**3.2 マテリアル** 太字・10.5ポイント

1行空ける

**3.3 手順** 太字・10.5ポイント

1行空ける

**4. 結果** 太字・中央揃え・10.5ポイント

1行空ける

**5. 考察** 太字・中央揃え・10.5ポイント

1行空ける

**謝辞** 太字・中央揃え・10.5ポイント

1行空ける

本研究はJSPS科研費 JP12345678の助成を受けたものです。本研究の遂行にあたり，○○，△△にはデータ収集にご協力いただきました。また，□□にはデータ・コーディングに関するご助言を頂きました。

1行空ける

**引用文献 (APA第7版, pp. 313–352参照)** 太字・中央揃え・10.5ポイント

1行空ける

　引用文献リストには本文で言及したものについて，和文文献，欧文文献の順に並べる。和文文献は第一著者名の50音順で並べ，MS明朝10.5ポイントを使用する。欧文文献はアルファベット順で並べ，Times New Roman 10.5ポイントを使用する。各要素 (著者名・出版年・題目・出版社など) の間は下記の例のように半角スペースを空ける。

* 書籍の場合

佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子 (編) (2011). 『第二言語習得―SLA研究と外国語教育―』 大修館書店

白井恭弘 (2011). 「総論SLA研究とは何か―第二言語教育との関係を中心に―」 佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子 (編) 『第二言語習得―SLA研究と外国語教育―』 (pp. 3–26). 大修館書店

Ellis, R., & Shintani, N. (2013). *Exploring language pedagogy through second language acquisition research*. Routledge. https://doi.org/10.4324/9780203796580

Lantolf, J. P., Throne, S. L., & Poehner, M. E. (2015). Sociocultural theory and second language development. In B. van Patten & J. Williams (Eds.), *Theories in second language acquisition: An introduction* (pp. 207–226). Routledge.

* 論文の場合

吉島茂 (2014). 「CEFRの日本の外国語教育への応用」 『JACET関東支部紀要』 第1号, 4–19. http://ci.nii.ac.jp/naid/110009829903/en

Horwitz, E. K., Horwitz, M. B., & Cope, J. (1986). Foreign language classroom anxie*ty. The Modern Language Journal*, *70*(2), 125–132. https://doi.org/10.1111/j.1540-4781.1986.tb05256.x

Koizumi, R., & Fujimori, C. (2010). An exploration of measures to detect changes in speaking performance: A case study based on picture description. *JACET Journal*, *50*, 81–91. https://cir.nii.ac.jp/crid/1572261551939774592

1行空ける

**付録** 太字・中央揃え・10.5ポイント

1行空ける

付録に写真等の画像ファイル (.bmp，.jpg，や .pngなど) を使用する場合はオリジナルデータを紀要編集委員会に送ること。論文の投稿締め切りは日本時間の2024年8月31日23時59分である。投稿はオンラインフォーム (http://www.jacet-kanto.org/) から行うこと。

※紀要投稿者・執筆者以外の団体等が本テンプレートを異なる目的で使用する場合は紀要編集委員会に事前にご一報ください。